



広報 なかわだ

第 365号

3 月の予定

教会委員会	3 月 14 日
十字架の道行	3 月 5,12,19,26 日
	9 時 30 分
子どもと捧げるミサ	3 月 21 日
受難の主日	3 月 28 日



2010 年 3 月号

中和田カトリック教会
広報委員会発行

泉区中田北 1 丁目 9-1

Tel. (045) 803-6141

<http://www.paw.hi-ho.ne.jp/nakawadacatholic/>

平成 22 年 3 月 14 日

(キリストの埋葬 (カラヴァッジョ))



復活祭前の聖なる三日間の典礼に参加しましょう

主任司祭 小林 陽一

2010 年 4 月 4 日 (日) の前、4 月 1 日の聖木曜日、2 日の聖金曜日、3 日の聖土曜日の典礼に、出来るだけ参加いたしましょう。教会は、聖木曜日、聖金曜日、聖土曜日を復活祭前の「聖なる三日間」と呼んで、この典礼を特に大切にしております。この三日間の典礼で、主イエス・キリストの受難と死と復活がどのように行われたかがはっきりと示されます。この世を去る前のイエス様の思いを少しでも知るために、聖なる三日間の典礼の概要を記します。

* 聖木曜日 主の晩餐のミサ

イエス様は、この世からご自分が父である神のもとに移る時が来たことを知り、弟子達をいつくしみ、愛されました。そして、弟子達がひとつになるように祈っておられました。

弟子達との最後の晩餐をなさる前、イエス様は手ぬぐいを取り、たらいに水を汲んで、弟子達の足を一人ひとり洗いました。人の足を洗う仕事は、当時は主人のする仕事ではなく、しもべのする仕事でした。弟子達の足を洗い終えたイエス様は、「あなた方も互いに足を洗い合わなければならない」と言いました。謙遜な心でキリストを信じる弟子達に、助け合い、仕え合うようにとイエス様は教えました。

主の晩餐のミサの中の洗足式を見守りながら、弟子の足を洗ったキリストの心をしのびましょう。

* 聖金曜日 主の受難

聖金曜日の典礼の第 1 部・ことばの典礼の中で、イエス様が十字架の上で息絶える姿が朗読されます。この典礼は次のように進みます。

まず、司式者が沈黙のうちにひざまずき、しばらくして自席に行き、祈願を行い、第 1 部のことばの典礼の＜イザヤの預言＞が朗読されます。苦しむ主のしもべの姿が浮き彫りにされます。

乾いた地に埋もれた根から生え出た若枝のように、この人は主の前に育った。

見るべき面影はなく、輝かしい風格も、好ましい容姿もない。

彼は軽蔑され、人に見捨てられ、多くの痛みを負い、病を知っている。(イザヤ書・52 章 2～3)

答唱詩篇の後、＜ヘブライ人への手紙＞が朗読され、詠唱が続きます。＜ヨハネによる主イエス・キリストの受難＞の朗読の中で、主のご死去の場面が朗読されます。

盛式共同祈願の後、第 2 部の十字架の礼拝、第 3 部の交わりの儀で終わります。

聖金曜日、主の受難の典礼に参加したとき、十字架上のイエス様の悲しみ、痛みが伝わってくると思います。

* 聖土曜日 復活徹夜祭

復活徹夜祭の典礼では、キリストの復活と新しいいのちを象徴するシンボルとなる、火、水、ローソクなどが使われます。

集まった参加者の前で、司式司祭はこんろの中の火を祝福し、その火で復活のローソクを灯し、参加者が持つローソクにも火を灯して、行列して聖堂に入ります。復活のローソクを掲げた司式司祭は、「キリストの光」と歌い、会衆は「神に感謝」と答えます。

全員入堂後、火を灯したローソクを持った会衆は、先唱に合わせて＜復活賛歌＞を歌い、「キリストは死者のうちから復活し、人類を照らす光」となられたと歌ってしめくります。

第 2 部のことばの典礼では、イスラエル人がエジプトを脱出したときのことを記した＜出エジプト記＞など旧約聖書の朗読があり、祭壇のローソクに火が灯されると、参加者全員で＜栄光の賛歌＞を歌います。＜ローマの教会への手紙＞の朗読、福音朗読、説教の後、洗礼の約束の更新が行われます。参加者は手元のローソクに火を灯して、司式司祭の呼びかけに答え、自分が洗礼を受けた時のことを思い起こしつつ信仰告白をした上で、共同祈願を致します。

第 4 部の感謝の典礼に与り、信者は聖体拝領の後、派遣の祝福を受けて終了となります。

復活祭前の聖なる三日間の典礼の一つにでも参加することができれば、復活祭の喜びがごく自然に感じられ、よりよい復活祭を迎えることができると思います。

よい復活祭をお迎えください。

第5地区福祉懇談会に参加して

福祉（神の愛の証しをする）グループ

去る1月31日（日）午後、第5地区・近隣教会福祉懇談会が藤沢教会を会場に行われ、グループの3人が参加してきました。

今回は、2009年9月に梅村司教様が出された「教区長の時間」を、各教会からの参加者みんなで読み合わせながら分かち合いをする形で行われました。中和田教会も含めて、どこの教会もまだ十分に読み込んでいるとは感じられませんでした。指導司祭の久我神父様の助言をいただきながら、司教様が求めておられる「交わりとしての教会」についての理解を深め、それを実現するための共同宣教司牧に向けて、信徒も祭司、預言者、王としての使命に参与すべきこと、さらに三つの欠かせない要素としての自らの力で「祈りが捧げられ」「信仰が伝えられ」「愛の証しがなされる」ことが共同体に求められているということを、一同で共有することができました。

そして、三つの使命（祭司・預言者・王）がキリストにおいて一つに統合されているように、私たち共同体においても、三つの使命と三つの要素は三つが明確に区分されることなく、それぞれが統合された形で果たされなければならないということも感じ取りました。

今回も各教会から「前年度の活動報告」と「今年度の予定・目標」が提出されました。内容は教会の

規模や状況でそれぞれ多様ですが、どこにもやはり参加者の高齢化という課題が見られます。しかし、小教区を越えての交わりという視点から考えれば、もっと協力し合って、乗り越えていける部分があるのではないかと感じました。

さて、ここで、前回の懇談会での久我神父様からの提言「福祉という言葉は、どちらかというところから目線を感じられます。教会の福祉には“共に、同じ目線で”というところがなければなりません」を受けて、私たちは、今後「福祉グループ」をきっかけで「福祉（神の愛の証しをする）グループ」とすることに致しました。

今まで通り「福祉グループ」として下さってかまいませんが、基本に《神の愛を証しする》ことを置いたグループであることを自覚していきたいと思っています。

「私の兄弟であるこれらの最も小さな人々にしてくれたことは、つまり私にしてくれたことである」（マタイ 25 章 40 節）というイエス様の言葉に心を止めながら、できることを実行していきたいと思えます。皆様のご協力もよろしくお願いいたします。

参加した3人の感想をひとつにまとめさせて頂きました。

伊藤助祭様、司祭叙階おめでとうございます！

伊藤助祭様とは神学生の頃からお世話になっており、とても親しみやすくとても面白い神学生でした。中和田教会にいた頃は毎週遊びに付き合ってくださったことが、とても印象に残っています。

いつも中和田教会のこども達といっしょに遊んでいただき、とても楽しかったです。

最近は伊藤助祭様とはほとんど会う機会がなく、たまにしか見かけることがありませんでしたが、宮内助祭様からお話を聞き、とても驚きそして嬉しかったです。

本当におめでとうございます。

石井拓真



中和田教会の時は大変優しく接して頂きありがとうございました。

当時神学生だった伊藤助祭様や井上先生と卒業遠足でお台場に行っても楽しかったことは、伊藤助祭様とのよい思い出です。神父様になられても、お体に気をつけながら頑張ってください。

またいつかお会いできるのを楽しみにしています。
石崎雄太

伊藤助祭様との思い出は、中高生会で一緒にお台場に行ったことです。助祭様が常に私たちを笑わせようと考えておられたのが印象的でした。

また、クリスマス会で助祭様が自作のトナカイダンスを踊ったことなど、振り返ってみると、楽しかったり面白かったりという思い出ばかりが残っています。

これからも神父様のために心からお祈りしていますので、お体に気をつけて頑張ってください。

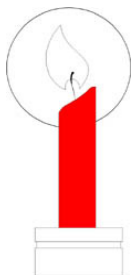
ほんとうにおめでとうございます。

美底沙織



四旬節・愛の献金に協力しましょう！

福祉（神の愛を証しする）グループ



教皇様は毎年、四旬節に向けてメッセージを発表し、キリストを信じるすべての人が四旬節の精神をよく理解して、回心と愛のわざに励むよう呼びかけておられます。この呼びかけにこたえて日本のカトリック教会は、虐げられ、差別され、見捨てられ、いのちの危機にさらされている人たちの共感を大切にするよう一人ひとりに訴えるとともに、四旬節中の「愛の献金」を奨励しています。この「愛の献金」は、カリタスジャパンを通して海外諸国と日本各地に送られ、難民や孤児、そして、貧困、失業、飢餓などに苦しむ多くの人々のいのちを守るために、また彼らの自立を助けるために使われます。そこで、この呼びかけに答えて、私たちも四旬節中の一つの犠牲の形として、「愛と祈りを込めた献金」を積極的にしていきたいと思ひます。

四旬節を通して、聖堂内のテーブル上のいつもの献金箱に献金をして下さるようお願いいたします。

なお、「愛のピン」も引き続き「ハイチ地震救援」のための募金をいたしております。

額の多少にかかわらず、困難を分かち合う心で、彼らに心を向けることが大切ではないかと思ひます。

岩淵委員長の コラム



今回小野さんの後を継いで委員長を拝命致しました。不慣れですが、宜しくお願い申し上げます。

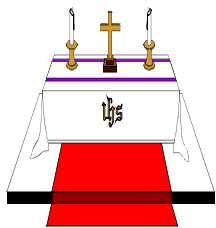
副委員長と兼務で広報委員に就任された小野さんから、これまでの委員長後記を独立したコラムにしたいとの御依頼がありましたが、これまで同様、議事録では伝わりにくい委員会の討議状況や、中和田教会内外の状況を御報告できればと考えております。

委員会として重要なことは、皆様に討議しているテーマへの関心をお持ち頂くと共に、皆様の御意見を反映してより良い活動にしていけることだと思っております。従って、是非広報の委員会議事録にもお目を通して頂くと共に、御提言、御不満、御意見等何でも各グループの委員の方々や私におっしゃって頂けると幸いです。

2月14日は新しい体制での第一回目の委員会が開かれました。この場で、今後中和田教会として解決していくべきいくつかの課題事項が設定され、各グループに持ち帰って討議して頂き、その意見を踏まえて委員会の場で検討していくことになりました。課題事項には、いかに風通しよく皆様の御意見を吸い上げ活動に反映させていくか、効率的に運営されすっきり定着してきたグループ活動を更に発展させるべく体制も含め見直していくこと、重要な懸案が多数ある建設関係の費用と優先度の検討、各種行事の遂行等々、色々あります。また、第5地区の共同宣教司牧委員会から、祈る力、伝える力、愛を証しする力を養成するための組織を各教会でも整備するように依頼がありましたが、これに答えて典礼、宣教、福祉の各グループ活動をどのように拡充して行くべきかも重要テーマです。

私は、これら課題を解決していくためには、開かれた委員会にしていくことが必須と考えておりますので、毎月第二週の委員会には、是非皆様も御自由に議論に御参加頂き、御意見を頂ければ有難いと思ひます。

広報委員が交代しました！



長い間広報委員を担当されて来た岩淵さんが教会委員長に就任され、その後を受けて広報を担当することになりました小野です。

岩淵さんが築き上げて来られた「広報なかわだ」の伝統を汚さないよう頑張りますので、皆さまの暖かいご支援を切にお願い申し上げます。

典礼こよみ（3月）

日	曜		ミサ・勉強会	備考
5	金		初金ミサ (10時)	十字架の道行 (9時30分)
6	土		主日ミサ (18時)	掃除 1 G
7	日	四旬節第三主日	主日ミサ (9時)	
12	金			十字架の道行 (9時30分)
13	土		主日ミサ (18時)	掃除 2 G
14	日	四旬節第四主日	主日ミサ (9時)	教会委員会
19	金			十字架の道行 (9時30分)
20	土			掃除 3 G
21	日	四旬節第五主日	子どもと共に捧げるミサ (9時)	
26	金			十字架の道行 (9時30分)
27	土			掃除 4 G
28	日	受難の主日 (枝の主日)	主日ミサ (9時)	

委員会だより

△ 3月14日(日) 9名出

■小林神父様からのお話

(1) 復活祭前の共同回心式・ゆるしの

秘跡の日程(―典礼グループ)

・昨年降誕祭の共同回心式は参加者が
少なかった(約20名)ので、外部
から神父様を招いて講話を依頼す
るのは控え、3月21日(日)のミ
サ後に「ゆるしの秘跡」の機会を
設ける。

・要理学校の子供のための「ゆるしの
秘跡」は3月28日(日)のミサ後
を予定する。

(2) 伊藤助祭(名古屋教区) 司祭叙階式

・3月22日(月)午後1時より名古屋
教区カテドラル布池教会にて。参列
者を募集する。

(3) 宮内助祭司祭叙階式・4月29日(木)
の予定

・叙階式へは教会からお祝い金と祝電
を送る。

・別に有志の方からのお心遣いも募集。
(4) 祭壇整備について

・祭壇周辺の整備を通して、信徒の
方々に現代の祭壇の意味付けを理
解して頂く良い機会であり、「何故
変えるのか」についても説明する。

・祭壇の変更は大きな事柄なので、臨
時信徒大会を開き説明したい。典
礼委員と建物を考える会を中心に
開催を検討。

■信徒大会の議事について

提起された課題と運営面を議論。

(1) 提起された課題の確認

・エタオル、AED、小石除去の業
務用掃除機、いずれも営繕グルー
プにて検討。

(2) 大会運営に関する反省事項

・大会終了後に信徒からの意見として、
2009年の活動報告と2010年の活動
計画の切り分けが不明確、時間が長
い、祭壇を変更にはお金がかかるの
で、「使えるものは使っていきたい」
という意見も多い。

・座席の並べ方を含めて、発言し易い
雰囲気作りを検討する。

■教会委員会の10年度の課題事項と
各グループへのお願ひ

委員長より2010年度に委員会で議
論したいテーマを説明(17テーマ)。
個々のテーマは今後の委員会で議
論する予定。

(1) 委員の改選促進、固定化の解消

(2) 各グループの2010年度の体制、活
動状況、方向付け。年度取り組み
方針

(3) 共同宣教司牧委員会の方角に照ら
したグループ活動の見直し、今後
の活動への反映

(4) 建設会計の長期的見直し

(5) 建設・設備・営繕関係項目優先度

(6) 祭壇周りの件確定、実行

(7) 委員会の運営方法

(8) 事務グループと教会建物を考える
会の位置付け

「事務グループ」を「総務グループ」
として正式なグループとすることを
決定。当面小野副委員長が委員代行。

(9) 献金に関する考え方の纏め、周知

(10) 愛の献金の収支

(11) 日頃からどうやって信徒の皆さん
のご意見を確認していくか?

(12) 若い人達をいかに引き込むか?
ヨゼフ会の位置付けと教会委員会

(13)

との連携

(14) 白板(スケジュール表)の運用

教会委員会決定事項を事務グルー
プへ提出して記載を依頼する。

スケジュール表の設置場所も、入口
ではなくじっくり読める場所へ設置
した方がよい。

(15) バザーの実施

(16) その他の重要行事の遂行

(17) その他(連絡網、名簿管理等)

■各グループからの報告・提言

(1) 営繕グループ

・消防設備総点検を3月23日(火)に
実施予定。

・信徒大会での「土足化による小石が
残る」と「業務用掃除機」の件は掃
除の状況から判断していく。

(2) 財務グループ

会計資料を保管する専用のファイル
キャビネットを設置する。

(3) 典礼グループ

・子どもと共に捧げるミサの第4週か
ら第3週への変更を要理グループと
調整し決定する。

・復活祭前のゆるしの秘跡(3月21日)
(要理の子ども達は3月28日)

(4) 要理グループ

横浜教区信仰教育委員会が3月21日
(日)カトリック平塚教会にて開催
される。3月9日までに参加者を募
集する。

(5) 宣教グループ

宮内助祭叙階式

・叙階式のパーティーに向けて原宿・
戸塚・中和田で準備中。パウンドケ
ーキ準備など行事グループに依頼した
いが、行事の運営体制を地区別に
更迭上である為、ボランティアを募

る形も検討していく。

・叙階式の侍者は各教会から2名選出。
第五地区キリスト教セミナー

5月22日(土)に松居友氏の講演を予定

【要理学校】

・1月31日に第五地区の集まりがあり、
8月7日・9日 あきる野合同キャ
ンプを計画

・宮内助祭の叙階式(4月29日)には子
ども席を用意。出席者数を把握する。

・中高生会は3月に進級祝いを兼ねて
イベントを計画

(6) 福祉グループ

・ハイチ地震募金 30,000円を送付済
み(カリタスジャパン経由)。

・炊き出し支援のため、お米と金銭の
募金を募集する。

・横浜教区から求められている「証し
する」部門として「福祉グループ」
を「神の愛を証しするグループ(福
祉グループ)」と改名する。次回広
報にて名称変更を周知する。

・2009年度の経費収支報告・寄付金報
告について説明。

(7) 広報グループ

・HPアクセス件数が二万件に達してい
る。内容がマンネリ化している
ので意見を求め、刷新してい
きたい。

(8) 行事グループ

・従来の運営体制では成り立たないの
で、地区別での運営体制へ変更する。
・A・B地区(復活祭と敬老会)・小野
副委員長、C・D地区(バザー)・福
島副委員長がそれぞれ推進役。

・行事グループは各地区の横串活動を
管理する。

・各地区から地区代表を選出し、地区
代表の方は教会委員会に出席してい
ただく。